

精神病院をなくした街で暮らす

人を攻撃したり騒いだりするの、彼らが恐怖を感じているとき

雨宮由紀枝（大学院生、元大学教員）

長野敏宏 様

「精神障害者“にも”対応した地域包括ケアシステムの構築」

精神障害者施策を調べていた時に、アレッと思いました。「にも」って何？

このネーミングの発案者は、長野さんだったんですね。

精神障害者向けに別のシステムを作るのではなく、地域包括ケアシステムは地域にひとつ。

知的障害も認知症も、みんな一緒のシステムの中で支援は可能なはず。

何十年にもわたり苦勞を重ね、地道な実践を積み上げて実現してきた方の言葉だからこそ、説得力があります。「にも」に込めた思いを、日本中に広げていきたいと思いました。

「精神科病院が街から消えたら、

入院医療費が5億から5千万まで10分の1になった。」

その間、介護保険財政も圧迫していないとのこと。精神科病院がなくても、地域でケアすることは可能である証左を、身をもって示してくださいました。

しかし、なぜ周辺に波及していかないのでしょうか。

それは、トリエステも同様とのこと。

このプロジェクトのハードルの高さ、諦めずに取り組み続けていることがどんなに大変なことなのかを、思い知らされます。

「病棟の鍵の番人が、すぐに地域に出て訪問看護師になんてなれない。」

ベテランほど変わらないのは、どこの世界も同じです。

新たな学び直しが必要になることへの面倒くささ。若い部下と立場が逆転する恐怖。既得権を手放したくない人たちは、難癖をつけて改革派を断念させてしまいがちです。

でも、ベテランたちの選択が、誰かの一生を台無しにし続けることであつたら。それは決して許されることではありません。

精神科医療の経営構造の岩盤は如何ともしがたく、諦めムードが漂っています。

しかし、若い精神科医たちが、古い体制の精神科病院に就職しなくなり、新たな実践に取り組みもどんどん出始めているとのこと。

内部からの改革が起きているとは。力強い希望の光を感じました。

「若い人の邪魔をしてはいけない。」私も自戒を込めて胸に刻みますが、ベテランの精神科医の皆様、どうか邪魔をしないでください。

「Place then train（現場に出てトレーニング）」

Train then place（施設の中で練習してできるようになったら現場へ出ましょう）  
なんて、永遠に無理なことは20年以上も前から世界の常識です。

病院の中の「ごっこ体験」は、実生活ではほとんど役に立ちません。上から目線の優しさや厳しさが、相手の自尊心や自立を損ねていることに無自覚な専門職も多いと思います。

できないままでも、周囲の力を借りて地域生活や就労を始めることで、経験を増やしていく。

意地悪な人もいますが、親切なおせっかいを焼いてくれる人も案外いるものです。

### 大学院生のときにパートタイムで精神科ソーシャルワーカー

(のまねごと) をしていた時代があります。

日常のお付き合いがあれば、精神障害のある方々は怖い人でもなく、自分と違う人でもないということがよくわかります。患者さんたちに癒やされていると思うこともよくありました。礼儀正しく優しい人も多かったですから。

同時に、ラディカルな NPO 団体の支援活動も目の当たりにしました。

奇跡的に退院して地域で暮らすうちに、いつのまにか自信をつけて、地域のおじさん・おばさんらしいドヤ顔になっていくのが、なんとも不思議で嬉しかったことを思い出します。

**「人を攻撃したり騒いだりするの、彼らが恐怖を感じているとき。」**

不安の頂点にあるときに、信頼する人がそばにいて「大丈夫だよ」と寄り添ってくれたら、どんなに安心することでしょう。当たり前の人、当たり前の感覚です。

こともあろうに、日本の多くの精神科病院では、保護室に隔離する、あるいはベッド

に縛り付けてオムツをあてて身体拘束をする。

どうしてこんなことが、常識としてまかり通っているのでしょうか。

**初めて保護室を見たとき、監獄かと思いました。**

打ちっぱなしのコンクリートに便器とパイプベッドのみの無機質な空間。

元気な人でも病気になりそうだと思います。

昨年介護保険証が届き、私も自分事として考えています。混乱して暴れたら、精神科病院で誇りを剥ぎ取られるのでしょうか。しかも、病院経営のための「増患」だったりして。

そんな恐怖におののけない社会にしたいです。

2024 年度から入院者訪問支援事業が始まりました。特に専門的な知識を求めているものではなく、広く一般から募集するようです。

人々の無関心、地域の差別や偏見の眼差しが最も大きな難題なのですから、まずはボランティアとして参加したいと思います。

**大切なのは「こどもたちを傷つけない」という予防の視点、全く同感です。**

小中校生の自死数は 500 人を超え、小中学の不登校生は 30 万人で過去最高を更新中。

2024 年度の 18 歳意識調査で、自国の将来について「良くなる」と答えた日本の若者はわずか 15%、アメリカ・イギリス・中国・韓国・インドの 6 カ国中でダント

ツ最下位でした。

日本の子どもたちは、こんなにも傷ついているのです。

教育現場で起きていることは、今の社会の姿と地続きです。社会のあり方を根本から変えていかなければならないと、改めて思いました。

最後に。今回もまた、ゆきさんの審美眼には驚かされました。

20 年も前から長野さんに注目したのは何故ですか？ 愛南がトリエステと並ぶ世界の最先端となっていくことを予知したのですか？

もうひとつ驚かされたのは、放課後に伺った「私のお骨は愛南の海へ」という言葉です。

そんなにまで魅せられる美しい海なのですね。ゼミの美女たちと一緒に、ぜひ訪ねてみたいと思いました。